資料５

人口・社会統計部会の審議状況について（報告）
（労働力調査の変更）

項　目	変更内容等	部会審議 第1回	部会審議 第2回	審議の状況
1　特定調査票における調査事項の変更	① 転職希望及び追加就業希望の回答欄を分割	●		**・適当と整理** （転職希望と追加就業希望を明確に区分することにより、就業異動の実態をより的確に把握することが可能となり、今後の労働政策の検討に資するもの） 【委員等からの主な意見】 ◆前回調査結果との時系列比較が可能となるよう、参考値等として公表してほしい。 ◆結果数値を時系列でみると若干のギャップが生じる可能性があるので、調査事項を変更した旨を明示し、利用者に対して注意を促してほしい。
	②「追加就労希望就業者」の把握に係る設問文の明確化	●		**・適当と整理** （未活用労働指標の構成要素を、ILO決議に基づく基準（以下「ILO基準」という。）に即してより正確に把握することが可能となるもの）
2　集計事項の見直し	集計事項の一部について、これまでの「完全失業者数」による集計に加え、ILO基準による「失業者数」による集計も開始	●		**・適当と整理** （従来の「完全失業者」による集計・公表に加え、ILO基準による「失業者」による集計・公表を行うことにより、労働市場分析や国際比較に必要な情報の提供を充実させるもの） 【委員等からの主な意見】 ◆ILO基準による集計も拡大しつつ、「完全失業者」を主たる公表として維持する対応は適切と考える。 ◆「完全失業者」はILO基準による「失業者」の部分集合であることから、「失業者」に公表数値を切り替えると失業者数が急増したように見えるため、慎重な周知が必要。
3　使用する統計基準等の変更	季節調整に用いるプログラムを、「X-12-ARIMA」から「X-13ARIMA-SEATS」に変更	●		**・適当と整理** （安定的な保守管理等の観点から、使用する季節調整プログラムを、提供が既に終了している「X-12-ARIMA」から「X-13ARIMA-SEATS」に変更するもの） 【委員等からの主な意見】 ◆プログラムの変更による影響については、今後も継続的に観測・検証してほしい。
前回の答申(※)で示された「今後の課題」への対応状況 (※)令和4年1月26日	標本設計の見直しの要否について定期的に検討	●		**・適当と整理** （令和7年国勢調査結果を踏まえて検証を行ったところ、２人以上世帯の15歳以上平均人員に大きな変化が見られなかったことから、現時点において直ちに対応する必要がないもの） 【委員の意見】 ◆今後も1世帯当たりの世帯員数の減少が見込まれるところ、現行の標本設計が将来においても適当かどうかは長期的な視点で検討してほしい。

※ 部会日程
・第1回（第158回人口・社会統計部会）：令和8年10月21日（水）に開催
・第2回は、令和8年11月18日（水）に開催予定（答申案を確認予定）